



15歳に付けたい力を育む

～「ことば探究科」を通して～

現在、府中市内の小中義務教育学校の児童生徒は、府中市独自の「ことば探究科」という教科を学習している。「ことば探究科」とは、教科等の枠を越えたすべての学習の基盤として生まれ活用されていく言語能力の育成をめざしたものである。この力は、広島県が求めている15歳に付けたい力のうち表現する力と同一のものと捉えている。これを義務教育9年間で体系的に学習することで、子供たちが豊かな人生を切り開き、持続可能な社会を生きていくために必要な力を府中市として全力で育成していきたいと考えている。

(府中市立国府小学校・立花正行)

- 4月2日 会計監査 (事)
- 4月2日 第一回幹事会 (東区)
- 4月20日 県公連理事會 (立町)
- 4月21日 第一回理事會 (東区)
- 4月27日 第一回各委員會 (東区)
- 4月27日 第二回幹事會 (東区)
- 5月11日 県公連評議員會 (立町)
- 5月16日 県公連不祥事防止対策特別委員會 (立町)
- 5月19日 第73回県連小總會 (立町)
- 5月23日 県公連合同専門委員會 (東区)
- 5月26日 全連小理事會 (東区)
- 5月27日 全連小總會 (東区)
- 6月1日 教育調査全体委員會 (東区)
- 6月7日 全連小合同部會・合同委員會 (東区)
- 6月8日 第三回幹事會 (東区)
- 6月8日 教育研究全体委員會 (東区)
- 6月13日 県公連理事會・評議員會 (立町)
- 6月14日 全連小事務担当者連絡協議會 (東京)
- 6月20日 全連小教育課程委員會 (立町)
- 6月20日 全連小教育課程委員會 (東京)
- 6月21日 第一回総務會 (東区)
- 6月21日 第一回理事會 (東区)
- 6月24日 教育研究小委員會 (東区)
- 6月30日 全連小広報担当者會 (東区)
- 7月5日 第二回理事會 (東京)

※会場の略号
 (事) 県連小事務局
 (東区) 東区民文化センター
 (立町) 広島経済大学立町キャンパス

事務局日誌



発行所
 広島県連合小学校長会
 事務局
 東区光町1-11-5
 地産ビル1003号
 電話(082)263-6381
 発行者 坂田 登

15歳に付けたい力を育む	1	委員会報告	3
事務局日誌	1	朝会講話	5
会長あいさつ	2	県教委だより	6
広島県連合小学校長会総会・研究大会	2	随想	6
退職校長紹介・新入会員紹介	3	あとかぎ	6



退職校長紹介

新市	明王台	山手	西深津	桜丘	旭丘	瀬戸	御幸	旭	【福山市】	五市市観音本計	瀬野	亀山	口田東	志屋	東野	伴	原	長東	安北	安	中筋	川内	井口台	己斐上	井口明神	大芝	仁保	大河	皆実	牛田	早稲田	中山	【広島市】	能登原	三谷	康文	津田	石井	浩樹	宇品	瀧口	久子	川尻	森田	修一	【安芸高田市】		
岡崎	境	小川	三島	岡田	和	藤田	宮本	池田	恭子	御幸	樋口	河野	田原	竹下	川口	山本	後藤	福原	河本	山下	神明	大田	岸	増田	西井	山崎	寺澤	松浦	石田	宅見	坂口	金山	佳代子	御野	迫田	靖恵	府中南	小田原	かおり	大芝	栗村	美苗	音戸	平本	悟	向原	児玉	聡子
孝史	孝司	智津子	秀幸	久仁子	留美	岳士	浩嗣	恭子	上黒瀬	御幸	樋口	博一	智子	和伸	万里	敏之	尚史	剛	紀子	重史	宏栄	恒二	俊之	紀美	章司	聡	順彰	徹	知己	政子	智子	白岳	【呉市】	廣南	福間	武志	高宮	高松	昌子	己斐上	新開	美和子	安登	上田	美穂子	【三原市】		
阿品台東堀	阿品台西山田	【廿日市市】	大古	吉本	加藤	寺山	木本	喜久美	【三次市】	豊松	北村	藤原	清水	中嶋	【東広島市】	野崎	光弘	【府中市】	中島	一郎	仁賀	中島	山崎	相模	高橋	石田	玉理	久美子	藤村	郷原	森重	直彦	高宮	高松	昌子	己斐上	新開	美和子	安登	上田	美穂子	【三原市】	木原	塚本	崇			
祐樹	啓一	幸三	俊英	靖則	靖則	喜久美	豊子	神杉	【三次市】	光元	妙子	史枝	眞人	崇弘	光弘	光弘	重井	伸幸	光範	一郎	仁賀	中島	相模	高橋	石田	玉理	久美子	藤村	郷原	森重	直彦	高宮	高松	昌子	己斐上	新開	美和子	安登	上田	美穂子	【三原市】	木原	塚本	崇				
仁保	黄金山	古	皆実	中尾	希恵	御野	西深津	幕山	【新入会員紹介】	光元	妙子	史枝	眞人	崇弘	光弘	重井	伸幸	光範	一郎	仁賀	中島	相模	高橋	石田	玉理	久美子	藤村	郷原	森重	直彦	高宮	高松	昌子	己斐上	新開	美和子	安登	上田	美穂子	【三原市】	木原	塚本	崇					
士手	美由紀	智子	裕司	希恵	御野	西深津	幕山	【新入会員紹介】	光元	妙子	史枝	眞人	崇弘	光弘	重井	伸幸	光範	一郎	仁賀	中島	相模	高橋	石田	玉理	久美子	藤村	郷原	森重	直彦	高宮	高松	昌子	己斐上	新開	美和子	安登	上田	美穂子	【三原市】	木原	塚本	崇						
港町	島藤	晃	浅木森	宏	美貴子	真有美	富美代	【新入会員紹介】	光元	妙子	史枝	眞人	崇弘	光弘	重井	伸幸	光範	一郎	仁賀	中島	相模	高橋	石田	玉理	久美子	藤村	郷原	森重	直彦	高宮	高松	昌子	己斐上	新開	美和子	安登	上田	美穂子	【三原市】	木原	塚本	崇						
庄山田	安部	ほずみ	美貴子	真有美	富美代	【新入会員紹介】	富美代	【新入会員紹介】	光元	妙子	史枝	眞人	崇弘	光弘	重井	伸幸	光範	一郎	仁賀	中島	相模	高橋	石田	玉理	久美子	藤村	郷原	森重	直彦	高宮	高松	昌子	己斐上	新開	美和子	安登	上田	美穂子	【三原市】	木原	塚本	崇						
島藤	晃	浅木森	美貴子	真有美	富美代	【新入会員紹介】	富美代	【新入会員紹介】	光元	妙子	史枝	眞人	崇弘	光弘	重井	伸幸	光範	一郎	仁賀	中島	相模	高橋	石田	玉理	久美子	藤村	郷原	森重	直彦	高宮	高松	昌子	己斐上	新開	美和子	安登	上田	美穂子	【三原市】	木原	塚本	崇						

委員会報告

教育調査委員会

委員長 杉原 妙子

本委員会はこれまで、継続的に刊行してきた「教育調査報告書『広島県公立小学校の実態』」作成にあたり、調査方法及び活用方針に係る検討を行ってきた。

令和三年度、広島県連合小学校長会と広島市小学校長会が県内において組織上分離したことをきっかけに、改めて調査項目を精選、調査方法の合理化を図っており、本年度は昨年度の検討内容を踏まえ、次の活動を行うこととしている。

一 活動内容

○ 昨年度までの調査項目を元に、県内小学校における現状と課題に係る調査として、「白書の調査」と「特別調査」を実施する。

○ 調査結果の集計、分析を実施、課題の整理を行い、課題改善のために必要なことについて提言をまとめ、県連小総務会並びに理事会に提出する。

○ 調査項目、調査方法等について、現状認識とのずれや実態に合っているか等について検討し、次年度の教育調査項目案を作成する。

二 活動計画の概要

四月 各委員選出・活動方針・活動内容の検討・活動計画確認

六月 調査項目の検討、調査方法の確認、調査結果のまとめ等の方法に係る協議・役割分担

七月～八月 調査実施、結果集計、結果のまとめ、考察内容の検討、報告書内容の検討

九月～十月 「教育調査」報告書の作成・発行・配布

十二月 次年度実施調査内容等の検討と実施に係る計画等の作成、申し込み事項の確認

一月 次年度の方角性の確認
(尾道市立高須小学校)

人事給与委員会

委員長 奥本雅幸

四月末、第一回全体委員会を行い、昨年度末の検討事項や申し合せ事項等を踏まえ、本年度の役員を選出し、活動方針・活動計画等を決定した。その主な内容は次のとおりである。

一 活動方針

県連小の活動方針を受け

○ 人材育成方針・体制のもと、教職員としての使命感や倫理観、実践的指導力などの向上に努める。

○ 教職員の職責に相応する適正な処遇が得られるように努める。

と設定した。教育改革の趣旨に添った校長を中心にした学校経営が進むよう、とりわけ、本委員会においては、人事・給与面で裁量の幅が広がるよう努力していきたい。また、市町の教育委員会と校長会との連携を深め、より望ましい学校経営に寄与していきたい。

二 活動計画の概要

四月

○ 役員選出・活動方針・活動計画・研修内容についての決定

五月～八月

○ グーグルフォームを活用した実態調査の集約・分析・考察・懇談会資料の作成

十月～十二月

○ 児童の転校についての調査依頼

○ 本年度の活動のまとめと次年度の課題について

○ 人材育成等に係る研修会

○ 次年度アンケート調査の検討

○ 児童の転出調査と学校間連絡

一月

○ 次年度活動方針・活動計画の作成
(呉市立安浦小学校)

教育研究委員会

委員長 立花睦子

本委員会では、研究主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」、副主題「夢や志をもち 他者と協働して 主体的に新たな価値を創り出す子どもを育成する学校経営」に基づき、第一回全体委員会で令和四年度の活動方針、活動計画を次のように決定した。

一 活動方針

研究主題の具現化を図るために、五つの研究領域から十の研究課題を設け、さらに研究の視点を明確にして、各組織団体において積極的に研究実践を行う。

その成果を第五十八回広島県連合小学校長会教育研究大会福山大会において全体・紙上提案をし、共有化するこ

とで研究の一層の深化を図る。

二 活動計画の概要

十六地区の各組織団体での研究実践交流の場として、年に三回の全体委員会と、福山大会の実践提案に係る運営案の検討や大会要項の作成に向け、五回の小委員会の開催を予定している。併せて、現地実行委員会との連携を図り、適宜検討・協議を行う。

加えて、本年度開催される主な研究大会は、十月十三日から十四日に行われる全連小島根大会・中国地区島根大会がある。さらに、十二月二十六日には第二十二回広島県公立学校校長会連合会研究大会が開催される。会員の皆様の積極的な参加をお願いしたい。

なお、次年度は、広島市において、教育研究大会を開催する予定である。一層の研鑽に努め、県民の負託に応えたい。

(福山市立南小学校)

広報委員会

委員長 栢野浩未

本委員会では、第一回(四月)広報委員会において、役員を選出を行い、令和四年度の活動方針、活動計画を次のように決定した。

一 活動方針

○ 県連小・各機関の会議・会合の審議決定並びに実施状況について

迅速的確に伝達する。

○ 会員の意思や、校長会の活動を収集伝達し、交流を図る。

○ 会員及び校長会に、職務遂行、資質向上、学校経営充実に生かせる情報を提供する。

二 活動計画の概要

① 会報二回

(第一九〇号・第一九一号)の発行(校長にはメール配信とする)

会報には、トピックス、あいさつ、退任校長・新入会員紹介、委員会報告、地区校長会報告、学校経営、朝会講話、県教委だより、随想などを掲載する。

(七月・十二月)

② 研究集録「もみじ」(令和四年度版第三十三号)の発行

(三月)

③ 速報の発行・配付

・ 県連小速報 年四回程度
・ 全連小速報 年数回程度

④ 全連小「小学校時報」への寄稿
テーマに従い執筆依頼・連絡などを行う。

(東広島市立高屋西小学校)





「笑顔あふれる学校に」

理事 神笠雅司

みなさんは、コロナウイルスに感染しないように我慢の生活を続けています。よく頑張っていますよ。しかし、我慢の生活のためか、みなさんの笑顔が少なくなってきたのではないかと心配しています。校長先生は、みなさんの笑顔が大好きです。今はマスクをしているので、表情がよく分かりませんが、マスクの下でもいつも笑顔でいてほしいと思います。

先日の運動会では、マスクを外して走ったり踊ったりしたので、たくさん笑顔に出会う事ができました。全力を出し切って頑張ったからこそ笑顔です。その姿を見ていた校長先生も、ずっと笑顔でいることができました。ところでみなさんは、学校生活の中でどんな時に笑顔になりますか。

友達からやさしい言葉をかけられた時や先生に褒められた時、分からない勉強が分かった時、休憩時間に全力で遊んでいる時、テストで良い点数を採った時、手を挙げて発表できた時など、様々な場面があることでしょう。

このように笑顔になれる場面が多く

なればなるほど、学校中に笑顔が広がっていくことになりそうです。しかし、このことは自分一人の力では大変難しいことです。周りの友達や先生の力が必要となってきます。一緒に生活している友達同士が優しく声を掛け合ったり、仲良く活動したり、応援し合ったりしていくことこそが笑顔を増やしていくための大切な触れ合いです。

一人の笑顔が十人、百人、そして学校全体に広がっていくよう、みんな力を合わせて、笑顔あふれる呉中央小学校を作っていきます。

(呉市立呉中央小学校)

挑戦するということ

めざす姿は「なかまち」

理事 上本真理

中町小学校でめざす子どもの姿は、**㊦**仲間を大切にする子、**㊧**体をきたえる子、**㊨**学び合う子、**㊩**挑戦する子です。先日の運動会のテーマの中に「チャレンジ」ということばがありましたね。それは、「**㊪**挑戦する子」と同じ意味です。

運動会で、みなさんが挑戦する姿をたくさん見つけました。整列やラジオ体操が揃う美しさ。応援合戦で張り切る姿。短距離走で名前を呼ばれて返事をして礼をするしぐさ。ゴールまで力いっぱい駆け抜けるかっこいい姿。リーダーでは、得意な人が長い距離を走るようにチームで工夫していましたね。

下学年の表現「中町小☆スーパー☆」や、上学年の「2022中町鼓笛隊」でも、美しく最後まで演技する姿が光っていました。

「挑戦」というと、難しいことや苦手なことに立ち向かう姿をイメージしますが、「試してみる」「新しいことをやってみる」という意味もあります。つまり、挑戦とは、自分でやろうと決めて自分で実行するということなのです。運動会では、一人一人が挑戦する姿が素敵でした。

挑戦に関係する諺に、「習うより慣れろ」というものがあります。一年生の皆さんは自分の名前を平仮名で全部書けますか。毎日書いているから、もう書けるようになってきていると思います。そんな風に、毎日挑戦していると、できることがどんどん増えます。

運動会を通してがんばった自分、成長した自分を認めて、これからも「**㊫**」**㊬**」を実践していきます。

(江田島市立中町小学校)

「何のために勉強するのか」

理事 早間貴之

コロナ禍の影響もあり、集合する朝会をしなくなりました。しかし、一年間のどこかで、児童に「勉強は、何のためにするのか」と問い、考えさせたい。そこで、私は、一学期始業式で次のお話をした。

「ところで、みなさんは、学校の勉強

は何のためにすると思っていますか。」(パワーポイントで文字とイラストを示しながら)「たとえば、算数の勉強のおかげで、買い物上手にできます。家庭科で習った料理や裁縫は、ずっと役立ちます。」「それから、将来、入学試験や資格試験があります。特に、車の免許はみなさんも取りたいですよ。そのためにも、学校の勉強を大切にしましょう。」

これら実務的な目的を伝えたら、次のポイントに入る。「みなさんは、大人になったら、何になりたいですか。」(ここでスクリーンに、鈴木誠也選手、介護士、車の整備士、パティシエ、テレビのアナウンサー、そして最後にヒカキンさんの写真を次々と示して)「こんなふうな、仕事はいろいろです。でも、どの仕事にも、学校の勉強が関係あります。」ここで、社会人として必要な資質・能力を簡単に説明した後「学校の勉強を続けていくと、今、説明したような『かしこさ』が身につきます。失敗した時や、周りの人とコミュニケーションを取る必要がある時でも、うまく乗り越え、気持ちよくつきあうために必要なのが『かしこさ』と言えます。」

少々理屈っぽくなってしまうが、要は、「生きるためのすべを学んでいる」ということを感じてほしい。

プレゼン資料のおかげで、子供たちは集中して話を聞き、見てくれたが、私の意図は伝わっただろうか。

(世羅町立世羅小学校)



「学びの変革」の原点

「遊びは学び」

広島県教育委員会事務局学びの変革推進部
乳幼児教育支援センター長 桑原智津子

園所等を訪問すると、どろどろになつて友達と遊ぶ子、草花をすり潰して色水を作る子、遊具に登ったりぶら下がったりしている子など、羨ましいくらい存分に遊んでいる子供たちに出会います。子供に誘われて森の中へ行く、紙の皿に盛られた砂や葉っぱの料理でもてなしてくれました。その子は工夫して作った料理について、一生懸命知っている言葉で説明します。「遊びは学び」を実感する瞬間でした。

子供にとつて「遊び」は探究の宝庫で、遊びそのものが学びです。発見すること、体を動かすこと、創造すること、失敗すること、人と関わること、それらの経験を繰り返し「探究の芽」が育まれていきます。園所等では、個々の成長を見取りながら、安心して遊ぶことができ、探究が自然に生まれ育つように、「ひと・もの・こと」の環境を整えているのです。

この乳幼児期の教育・保育の考え方が小学校でも共通理解されるよう、県教育委員会では、今年度、様々な取組を進めていくこととしています。小学校の初任者研修では、校区内の園所等での「一日就業体験」の時間を設けるとともに、指定市町における「幼保小連携協議会」の取組の一つとして、小学校の教職員に校区内の園所等へ複数回訪問していただき、子供の姿を通して育ちと学びの理解の促進を図っていきます。

こうした取組を通じて、より多くの教職員が乳幼児期の教育・保育の考え方を学び、小学校のカリキュラムや授業改善につなげていただくことを期待しています。

随想

「当たり前前」のことを当たり前前に

副会長 空本秀寿

校長として最も大切にしてきたことは、「当たり前前」のことである。それは、就任してすぐの五月初旬に生起させた事実がきっかけである。

平成二十八年四月、教育行政から十四年ぶりに学校現場に復帰させていたことが嬉しさと不安が交錯する中で学校経営をスタートさせたことを思い出す。

学校はもとより広島県教育の信頼を著しく失墜させてしまった。この事案は今でも鮮明に脳裏に焼き付いており、自分への戒めとして心に刻んでいる。

たつた一つの軽率な行為が、組織に深刻なダメージを与え、全ての業務を止めなければならなくなる。まさに信頼を失うのは一瞬で、それを回復させるためには多くの時間と労力が必要になることを全教職員が身をもって知ることとなった。

このように育まれた「探究の芽」を、小学校以降の教育において、「主体的・対話的で深い学び」へと深化させていくこととなります。「遊びは学び」という乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に必要な視点であり、本県が進める「学びの変革」

着任後一ヶ月たった五月三日未明、本校の臨時教員が、不祥事の三大悪と言われる「酒気帯び運転」の疑いで現行犯逮捕されるといふ事案を生起させ、児童・保護者・地域の方々をはじめ、多くの関係者に多大なご迷惑をかけ、

その事案以降、ピンチをチャンスに変える意識で、教職員が一丸となって、一日も早く学校の信頼を回復させるために、一步一步着実に教育活動を実践していった。この経験から、不祥事の未然防止が最大の業務改善であると考

えるようになった。「今日の一针 明日十針」ということわざのとおり、どんなに小さな「ヒヤリ・ハット」でも必ず管理職や同僚に「報告・連絡・相談」する。また、解決した事案についても確認まで徹底することが大切であることを教職員に説いてきた。そのためにも、何でも言え何でも相談できる風通しの良い職場づくりが必要であり、こうした組織に育てていくことが、不祥事を生起させない原点であると思っている。

あとがき

(東広島市立寺西小学校)

今年度の五月の総会・研究大会は、ようやく三年ぶりの対面とオンラインを併用した開催となりました。

長引くコロナ禍での学校経営は、校長先生方には大変なご苦労・ご心労が続いていることと思います。このような中で、この会報一九〇号が発行できましたことは、ひとえに皆様方のおかげと感謝しております。

県連小広報活動が、少しでも皆様の学校経営の充実に資するよう引き続き努力して参りたいと思います。

一年間、皆様のご協力を宜しくお願い致します。